

手ひねい陶芸 開催しました！

手ひねり陶芸を 11 月 19 日(土)に 1 日目、12 月 17 日(土)に 2 日目、それぞれ午前の部と午後の部の 1 日計 2 回にわけて開催しました。

この手ひねり成形は、粘土（約 1 5 0 0 グラム程度）を使って手回しろくろ（各自が手で回すもの）でひも状にした粘土を積み上げて作品を作ります。成形→仕上げ→乾燥→素焼き→釉薬かけ→本焼き→完成という流れの中の成形と仕上げの工程を行います。

第 1 日目は、成形する日です。

粘土は焼くと収縮するので想像している大きさより約 2 cm 程大きく作ります。参加者の方々は思い思いの器の大きさをイメージしてから器作りに入っておられました。まず、手回しろくろの中心に粘土を置き、粘土を均一で平らにするために手のひらでたたきます。その後、手回しろくろを回し、まわっている向きに針先を向け軽く線だけを入れた後、描いた線にそって針で切り取っていきます。力の加減が難しそうですが、皆さん指を上手に使い丁寧に作業をされていました。土台ができたならそこに水を軽く塗りつけ、紐状にした粘土を置き、土台の粘土と紐状粘土を指で押しつけ形を作ります。つけた後のつなぎ目の線が内側や外側にあるので指でなでて丁寧に消す作業へと続きます。手回しろくろで粘土を積み上げるときに粘土に空気が入ったり、しっかりくっついていないと破裂して壊れたり、持ったときにとれてしまったりすると聞いて慎重にまた、力を込めて仕上げていきました。

目指す大きさになるまで、繰り返し紐状粘土を積み上げていきます。なかなかこの作業が大変で、少し指の形や方向が違うと形がゆがんでしまうので、時間をかけ様子を見ながらじっくりと作業をされていました。最後に形を整えて完成。次回の仕上げ（削り）へと展開していきます。第 1 日目は、はじめて陶芸に参加されたとは思えないほど手慣れた手つきで粘土を練り上げ形を作っておられ、その様子を感じて眺めていました。

今回参加された方は、はじめての方もおられましたが、次第に手慣れた様子でテキパキと作業をこなされ、また一つ一つの工程も丁寧にそして美しくこなされていたのがとても印象的でした。

つづいて第2日目、この日で仕上げ（削り）をします。

前回作った作品の裏を削って形を整えるのが今日の大きな目標です。

まず、手回しろくろの中央に裏向けた作品を置きます。作品がろくろ台の中央に収まらないといびつになると聞き、慎重にまたそおっと優しく設置。息が詰まる瞬間でもありました。中央に無事置き終わると一仕事終えた不思議な満足感が生まれてきたようでした。安堵の表情を浮かべておられるのを伺い知ることができました。

その後、軸になる線を針で描きろくろ台を回します。ここで利き手を反対の手で支え固定することがポイントと聞き、かえって堅くなってしまいましたが、何回かこなしていくうちにスムーズに動き出しました。次に線を描いたところ以外をワイヤーベラで削ります。あまり大胆に削ると穴が開くので、ここは慎重に慎重に少しずつ削ります。緊張の連続で肩がこる作業でした。

仕上げに底の厚みとでこぼこしている部分をなくすために水を絞ったスポンジでなめらかにします。だんだん表面がつるつるになり、滑らかになりました。完成です。この後、800度で素焼きをした後に、希望した色の釉薬をつけて1230度で本焼きをします。

完成が楽しみです。なお、完成した作品は、自然の家から作られた方に連絡をして後日引き取りに来ていただくことになっています。ご参加いただいた皆様は、きっと陶器ができあがるのを心待ちにされていることでしょう。お疲れ様でした。

今年度は、電動ろくろを使つての陶芸作品作りも計画しております。その様子もまた、お知らせしたいと考えています。

所員一同、皆様のおいでを心待ちにしております。

活動の様子

11/19開催の様子



12/17開催の様子



